



令和 8 年 1 月 21 日
地磁気観測所

磁気嵐が観測されています

大きな磁気嵐が発生し、地磁気観測所の観測によると、地磁気の大きな乱れが 20 日 04 時 17 分から始まり、変動幅は 427nT（ナノテスラ）に達しました。

気象庁地磁気観測所（茨城県石岡市柿岡）の観測によると、磁気嵐の特徴がよくあらわれる地磁気の水平成分の変化（乱れ）が、20 日 04 時 17 分に始まり現在も続いています。21 日 09 時現在、変動幅は最大で 427nT に達しました（別紙図参照。1924 年以降では 1941 年 7 月 4 日に 700nT 以上の記録が最大）。

今回のように大きな磁気嵐が発生すると、船舶や航空機通信に用いられる短波通信の障害や GNSS（GPS）測位への影響等が発生する場合があります。

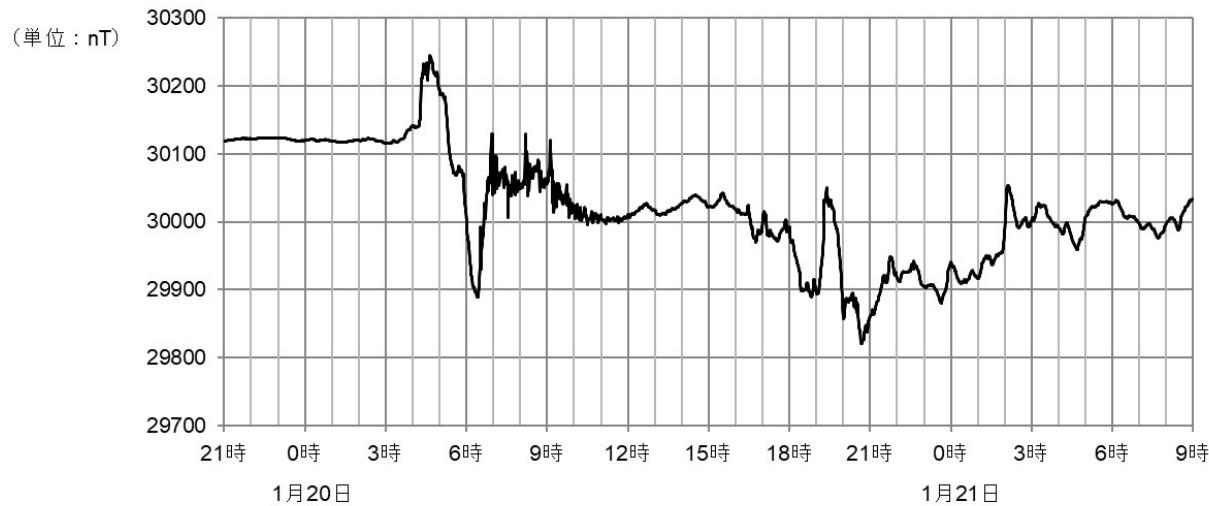
国立研究開発法人 情報通信研究機構によると、この地磁気の乱れは、1 月 19 日 03 時 09 分に発生した太陽表面での爆発（フレア）による影響とみられます。

最新の地磁気の観測状況は、気象庁地磁気観測所のホームページでご覧下さい。（<https://www.kakioka-jma.go.jp/index.html>）

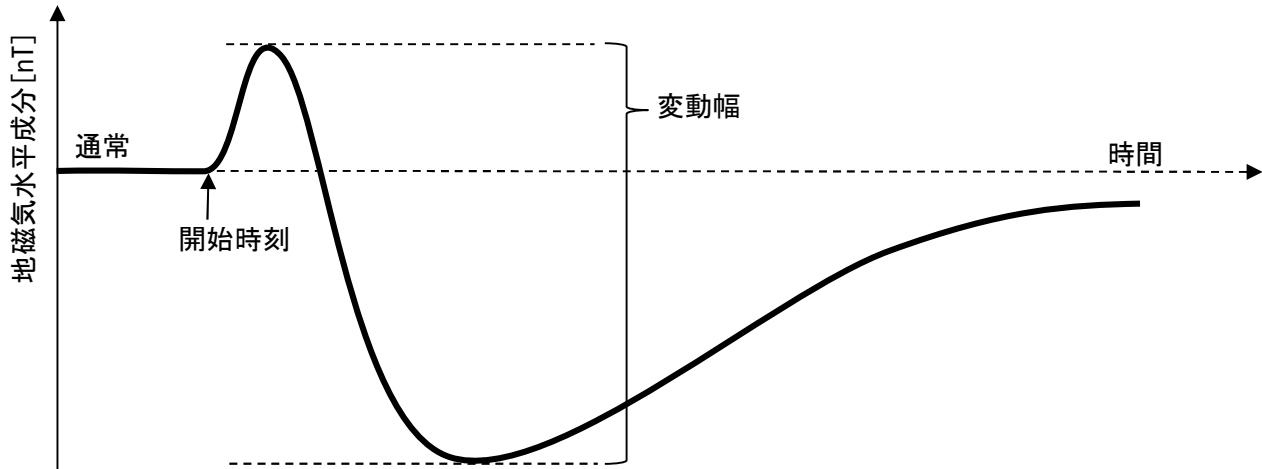
参考：

- 磁気嵐とは、太陽表面で発生した大規模なフレア等により発生した高エネルギー粒子（電子、陽子などの荷電粒子）が、地球に到達した際に観測される顕著な地磁気の乱れのことです。
- 地磁気の単位は nT（ナノテスラ）を用います。日本付近の平均的な地磁気の水平成分の大きさは約 3 万 nT で、平穏時の日変化は 50nT 程度です。
- 地磁気観測所で観測された磁気嵐の情報は、地磁気観測所から情報通信研究機構（NICT）に通報し、宇宙天気予報に役立てられています。

お問合せ先：地磁気観測所技術課
電話：0299-43-1876



図は地磁気の水平成分で、日時は日本時間です。



磁気嵐時の地磁気水平成分変化の模式図